

【平成13年度以前入学生用】

授業科目名(英語名)	金融論 (Monetary and Financial Economics)				
担当教員(所属)	田中信孝 (総合政策学科)				
教育課程	総合政策学科展開科目(行政・経営系科目)				
開講年次	4年前期(平成20年度は後期開講)				
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択科目
資格対応					

【平成14～16年度入学生用】

授業科目名(英語名)	金融論 (Monetary and Financial Economics)				
担当教員(所属)	田中信孝 (総合政策学科)				
教育課程	総合政策学科展開科目(行政・経営系科目)				
開講年次	2年・3年・4年前期(平成20年度は後期開講)				
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択科目
資格対応					

【平成17年度以降入学生用】

授業科目名(英語名)	金融論 (Monetary and Financial Economics)				
担当教員(所属)	田中信孝 (総合政策学科)				
教育課程	総合政策学科展開科目(行政・経営系科目)				
開講年次	3年後期				
授業形態	講義	単位数	2	必修・選択	選択科目
資格対応					
授業のねらい・概要	<p>この講義では、お金の流れと経済に関わる金融の基礎理論を学ぶ。金融は経済活動の血液ともいうべきものであるから、経済の動きに大きな影響を及ぼす。日本の金融機関は1990年代初頭のバブル崩壊後、大量の不良債権を抱えて、自己資本規制の問題や金融システム不安に悩まされたが、そのことがその後の長期におよぶデフレ経済の要因にもなった。授業では、金融論の基礎として、金融市場（間接金融と直接金融および具体的市場としての株式市場・債券市場）、金融機関の機能、貨幣の役割、信用創造の理論等について論じる。さらに、中央銀行の役割（金融政策）、金融と財政、国際金融について検討を加える。</p>				
学修目標	<p>① 金融の基礎的な理論および制度を知る。 ② 日常生活で起きている金融・経済問題を理解することができる。</p>				
授業の計画	<p>第01～03回：貨幣の役割 貨幣数量説、マルクス、ケインズ、マネタリズム 第04～06回：金融政策 中央銀行の役割、マネーサプライ、信用乗数、ゼロ金利・量的緩和政策 第07～08回：金融システム 金融市場（間接金融・直接金融）、金融機関の機能、資金循環、株式会社・コーポレートガバナンス 第09～11回：財政と金融 金融市場と財政、政府の金融活動、国債管理</p>				

	<p>第 12～13 回：経済のグローバル化と国際金融 国際分業、比較生産費説、金本位制度と管理通貨制度、国際通貨制度、 外国為替相場、円高・円安、購買力平価</p> <p>第 14～15 回：資産価格の変動とバブル経済 ストックとフロー、資産価格、バブルの発生メカニズム、不良債権の処 理</p>
テキスト教材等	プリントを随時配布。テキストは使用しないが、参考書は必要に応じ提示する。
授業の形式	講義形式。授業のなかで随時小テストを課する。
成績評価の方法	小テストの成績で評価するが、総平均で 6 割以上の点数を取得することが単位取得の条件である。
履修にあたっての留意点	系統的、連続的な講義内容となるので、2 / 3 以上の出席を単位認定の前提とする。
備考	金融に関する日常生活の出来事に関心を持つ学生の受講を期待する。